

# 本格化する下水管路の長寿命化

## 調査業務の実績伸ばす



（株）ヒューテック（安曇野市）  
ヒューテックが昨年、中农信エリアで初めて導入した「超高压洗浄車」

同社は約10年前の平成11年、建設コンサルの（株）アンドー（松本市）のグループ会社として設立された。昨年、社長に就任した伊藤昌志氏は「当時はまったく仕事（調査）がなかった」と設立当初を振り返る。ただ、東京都内など大都市圏ではすでに更生事業が進んでいることもあり、「マーケティングでは手応え

を感じていた」（伊藤社長）。調査業務を行う都内の企業に社員を派遣するなどしながら、着実に技術者を育ててきた。

### 将来的には更生工事参入も視野

道路や橋りょうなど社会インフラの維持・補修が本格化する中、都市部を中心に下水道など埋設（布設）年代が古い老朽化した管路の長寿命化が大きな課題となっている。県下各自治体でも、老朽化した管路の延命を図る「更生」工事の前提として、管路の調査業務（テレビカメラなど）の増加が見込まれる。そんな中、県内でいち早く同業務に参入した（株）ヒューテック（本社・安曇野市、伊藤昌志社長）が、ここ数年、受注実績を伸ばしている。同社では将来的に更生工事などへの参入も視野に入れる。

#### ■（株）ヒューテック

http://www.hyutech.co.jp  
本社／安曇野市明科光634-1  
営業所／千曲・諏訪・名古屋  
従業員数／25人  
年間売上高／約3億6000万

査を受注している。

下水道管路については、老朽化などを要因とする破損や障害物による詰まりなどトラブルも多く、同社では、こうしたトラブル処理も手掛ける。昨年、「中农信エリアで初めて」超高压洗浄車を導入した。木の根や固まったモルタルの除去、洗浄など下水管のトラブル解消で大きな威力を発揮している。

伊藤社長は今後、先行して培ってきた管路の調査技術や、導入した超高压洗浄車などをベースに据え、「管」から派生する事業を複合的に展開しながら会社を発展させていくビジョンを描く。下水道管路の調査・更生が、新規埋設のときのように爆発的に伸びる事業（市場）ではないと見るためだ。

現在、安曇野市内の農業集落排水や下水道の処理場（6カ所）の管理運営業務を手掛ける。また、超高压洗浄車により、企業や工場マンション、ビルなどを対象とした排水管・給水管の洗浄といった民間向けの事業も始めている。今後は洗浄車を生かした外壁の清掃や、さらには水回りを中心とするリフォーム分野への進出なども視野に入れる。

複合的な事業展開により経営の安定化を図りながら、本業の調査業務について伊藤社長は「県外でも展開していきたい」と意欲を見せる。昨年は、その拠点として名古屋営業所を開設した。

将来的には老朽管路の更生工事も手掛けたい考えだが、「やるとすれば県内だけではビジネスとして成り立たない」と分析。「多額の投資も必要になる。市場の動向を見極めながら、あわてず慎重に判断する」と話す。